

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	神戸学院大学
設置者名	学校法人神戸学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/financial/
収支計算書又は損益計算書	https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/financial/
財産目録	https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/financial/
事業報告書	https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/financial/
監事による監査報告(書)	https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/financial/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 2019(平成31)年度事業計画書 対象年度: 2019年度)
公表方法: https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/financial/
中長期計画(名称: 第2次中期行動計画(2018-2022) 対象年度: 2018-2022年度)
公表方法: https://www.kobegakuin.ac.jp/foundation/middle/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.kobegakuin.ac.jp/information/evaluation/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.kobegakuin.ac.jp/information/evaluation/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 法学部
教育研究上の目的 (公表方法: https://www.kobegakuin.ac.jp/information/public/) (概要) 法学部法律学科の教育研究上の目的は、法化社会、国際化社会の時代に対応した法律学と政治学の研究教育を行い、法的素養を身につけた職業人、そして国内外の公共的事柄に関心と責任感を持った市民を養成することとする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/diploma.html) (概要) 1. 知識・理解 法の理念および現実の社会における法の運用を踏まえて、法および政治について体系的に学修し、法化社会・国際化社会に対応した法的素養を身につけている。 2. 汎用的技能 社会における各種の問題について、その要点を把握し、必要な情報を収集・分析して、法的思考に基づいた説得力ある解決指針を示すことができる。 3. 志向性 地域社会から国際社会に至る国内外の公共的事柄に関心と責任感を持ち、公平性と客観性を重視した判断および行動ができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/curriculum.html) (概要) 法学部では、「ディプロマ・ポリシー」に定めた教育目標を達成し、法的思考力（リーガルマインド）や政治学・国際関係の素養を生かして社会のさまざまな分野で活躍・貢献できる人材を育成するために、以下のカリキュラムの方針に基づいて教育を実践します。 全般的方針 1・2 年次は、専門知識と専門的思考力の基礎を固めるとともに、将来の進路について目標を探る期間とする。3・4 年次は、専門知識と思考力を深化させ、応用力を修得するとともに、将来の進路目標を実現することを目指す。 具体的方針 1. 共通教育科目（1～4 年次） 専門教育の基礎を築き、視野を広げるため、また、社会人としての基本的技能を修得する機会を提供するために、「共通教育科目」を 24 単位以上修得することを卒業要件とする。 2. 基礎演習（1 年次前期） 大学生活に適応し、学部における学修の道筋についての理解や大学環境の活用方法の修得を内容とする 20 名規模の「基礎演習」を入学直後の学期に設置し、全員受講科目とする。 3. 基礎専門教育科目（1・2 年次） 法学の基本分野（憲法、民法、刑法、商法）と政治学・国際関係を学ぶ意義を知り、関心を高める目的で「基礎専門教育科目」を設置し、10 単位以上を選択必修とする。法学・政治学の勉学に必要な情報処理の基礎も学ぶ。 4. 主要科目（1・2 年次） 法律の主要分野（憲法、民法、刑法）の専門的知識や思考の基礎を固めるため、「主要科目」を設置し、6 単位以上を卒業要件とするとともに、3 年次への進級要件とする。

5. コース制と専門コア科目 (2年次以降)

2年次から、「法職」「行政」「企業」「国際」の4つのコースを設け、個々の学生の将来の進路希望に応じて、いずれかのコースを自由に選択する。一般専門教育科目のうち専門性の高い科目を「コア科目」として編成し、その中から各コースの重要科目をコア科目「A群」として指定する。コア科目A群は、32単位以上を各コースの選択必修とする。

6. 演習科目 (2年次以降)

特定の分野を深く研究しつつ、思考力やコミュニケーション能力を高めるため、2年次より専門分野の「演習科目」を設置する。

7. 実務科目 (1~4年次)

実社会との交流によって実践的な視点を養うため、弁護士会などの職能団体や自治体などとの連携による「実務科目」を設置する。

8. サプリメント科目 (1~4年次)

憲法・民法・刑法の主要法律分野の教育を補完する科目として「サプリメント」を設置し、基礎学力修得を補完する科目として「リメディアル」、より高度な内容を求める学生のニーズに応えるため「アドバンス」の科目群を設置する。

9. キャリア関連科目・特別演習科目

卒業後の進路について考え、進路目標に向けての実践能力を高めるために、「キャリアトレーニング入門」(1年次)、「キャリアトレーニング」(2年次以降)、「法学検定実務科目」(1~2年次)、「特別演習科目」(2年次以降)を設置する。

10. 総合科目

海外研修参加、資格・検定取得などの成果を評価するために、「総合科目」を設ける。

11. 関連科目

専門的な視野を広げるために他学部提供の「関連科目」を設置する。

入学者の受入れに関する方針 (公表方法: <https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/admission.html>)

(概要)

法学部は、ディプロマ・ポリシーに掲げた教育目標を実践し、社会の様々な分野で活躍できる人材を育成するために、以下のような方々の入学を期待します。

1. 高等学校の教育課程における基礎的な学力を習得し、それを大学における法学・政治学の専門分野の勉学に生かそうとする人。
2. 社会の様々な動きに関心を持ち、自らの考えを積極的に表現できる人。
3. 勉学だけでなく、課外活動やボランティア活動などにも積極的に取り組んできた人、あるいは大学でも積極的に取り組む意欲のある人。
4. 基礎学力や特殊技能を生かした資格や検定に一定の成果をあげ、それを将来に生かそうとする人。
5. 社会における経験や外国での生活経験を学びに生かそうという意欲のある人。

学部等名 経済学部

教育研究上の目的 (公表方法: <https://www.kobegakuin.ac.jp/information/public/>)

(概要)

経済学部経済学科の教育研究上の目的は、経済社会の仕組みを理論・歴史・制度の観点から体系的かつ専門的に学び、修得した知識と技能をもって現代社会の発展に貢献できる人材を育成することとする。

卒業の認定に関する方針 (公表方法: <https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/diploma.html>)

(概要)

本学では建学の精神「真理愛好・個性尊重」すなわち「学びと知の探究を通じて、普遍的な学問体系の英知に触れる喜びを実感し、その過程で自己と他者の個性に気づき、互いの存在をこよなく尊重すること」を理念とし、教育目標である、経済社会への多面的な知識をもち、地域社会に貢献できる良識ある経済人の育成を目指します。

この教育目標の下、経済学部では教育課程を通じて、卒業に必要な単位を取得し、本学部が定める卒業要件を満たし、次の能力を修得したものに学士の学位を授与します。

(知識・技能)

1. 経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。
2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。

(思考力・判断力・表現力等の能力)

3. 経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できる。
4. 自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる。

(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

5. 経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : <https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/curriculum.html>)

(概要)

経済学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成します。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や修学の順序を表現する履修系統図を使い、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。

1. 教育内容

1. **共通教育科目** : 専門教育の基礎となる技能や社会人として必要とされる基礎的な思考力や実践能力を育成し、広い視野と柔軟な思考力を育成する科目で構成されています。
2. **専門リテラシー科目** : 初年次においては、経済学を深く修得するための統計学や経済数学を習熟し、2年次以降は、修得した経済、歴史、社会、文化についての専門知識をもとに、他者と協調、協働できるコミュニケーション力を養成します。
3. **基幹科目** : 経済学における専門性の高い応用分野を学修するにあたって、最もコアで基礎ともいえるべき「基幹科目」を編成しています。
4. **演習科目** : 主体的な学びを促進するために少人数クラスの演習を開講しています。初年次では、「入門演習」、「基礎演習」を履修することで、大学生活に適応し、大学における基本的な学修スキルを養成し、経済学学修の道筋についての理解を促します。2年次から履修できる「演習」では、ゼミ生と協働しながら専門的な経済学を自主的に学修し、思考力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力そして問題解決能力を養成します。
5. **コース制とコース専門科目** : 2年次より各学生が自ら希望・選択する分野でより専門的履修が行える3つのコース(企業経済コース、公共経済コース、総合経済コース)別の教育課程を整備し、すべての学生が1コースを選択する枠組みを設定します。コースの特徴を生かした専門科目を編成しています。
6. **関連科目** : 専門的な視野を広げるために、法学と経営の科目を履修することができます。
7. **キャリア専門科目** : 卒業後の進路を見据えつつ、地域社会に貢献できる良識ある経済人の育成と自立した社会人への成長を促します。
8. **卒業論文とコース別特講** : 4年間の経済学修得の総仕上げとして、卒業論文とコース別

特講（企業経済特講／公共経済特講／総合経済特講）を編成しています。

2. 教育方法

1. 初年次より、少人数のゼミの履修を実施し、インタラクティブな教育を実施します。
2. 経済学教育で特に重視している「経済数学Ⅰ」「基礎経済学」「マイクロ経済学」「マクロ経済学」については、複数のクラスを開講し、きめ細かな指導で着実な修得を目指します。
3. 学習シートを活用し、自己評価と他者評価を踏まえた、学びの振り返りと自発的な今後の学習方針を促します。特に成績不振者に対しては、教員による個人面談を実施し学修指導を行います。
4. 毎学期末に実施される学生による授業評価アンケートをもとに、より改善された学修環境のためにそのフィードバックに努めます。
5. 表彰制度（「経済学部長賞」・「経済学部賞」・「優等賞」）を設け、学修のインセンティブ（動機）を高めることに努めます。

3. 評価方法

4年間の総括的な学修成果については、卒業論文の評価あるいはコース別の特講科目を履修し、その修了認定試験の評価でこれを行う。卒業論文は主査・副査からなる厳正な審査を経て評価される。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/admission.html>）

（概要）

神戸学院大学経済学部は、ディプロマ・ポリシーに掲げた教育目標を達成するために以下のような方々の入学を期待します。

1. 知識・理解力

国語、英語、地理歴史、公民、数学などについて、高等学校卒業相当の知識を有し、それらの基本的内容を理解している。

2. 関心・意欲

社会問題に対する関心を持ち、問題解決を志向する学習意欲を有するとともに、大学で学んだ知識や技能を自分の将来や社会に役立てたいという意欲がある。

3. 思考・表現力

社会問題を多面的に考察し、自分なりの判断を行うことができるとともに、自分の知識や意見を他者に分かりやすく表現することができる。

学部等名 経営学部

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.kobegakuin.ac.jp/information/public/>）

経営学部経営学科の教育研究上の目的は、現代社会における経営の仕組み及び行動について体系的に学び、具体的には経営・商学分野、会計分野及び経営情報科学分野の基本的な学修を通し、現代社会で活躍しうる人材を育成することとする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/diploma.html>）

（概要）

経営学部の学生は、卒業までに以下の目標達成を求められています。

1. 現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する。
2. 企業等の財務・会計に関する基礎から応用に至るまでの知識・技能を学修する。
3. 情報通信技術（ICT）を用いて経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題をシステム化するのに必要な数理情報の知識・技術を学修する。
4. 社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識・技能を学修する。

5. 経営の問題を総合的に分析・解析できる知識・技能を修得する。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/curriculum.html ）
<p>（概要）</p> <p>経営学部では、年次進行に沿って次のようなポリシーで教育を行います。</p> <p>1年次</p> <p>経営学部専門教育全般に必要な基礎知識を学修させ、上級年次の経営・商学コース、会計コース、経営情報科学コースのどのコースに入っても対応できるようにさせる。</p> <p>2年次</p> <p>前記の3コースに分かれて学修させるとともに、所属以外のコースの科目も幅広く履修させる。</p> <p>3年次</p> <p>興味のある問題に着目し、各自で調査・分析する能力を修得させる。また、専門知識を深めさせながら、経営問題に取り組む姿勢を身に付けさせる。</p> <p>4年次</p> <p>経営問題に関する分析および解決策の研究を行い、その結果を報告する能力を修得させる。そして、経営学部での学修の総仕上げを行わせる。</p>
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/admission.html ）
<p>（概要）</p> <p>経営学部は、社会で活躍できる人材を育成するために、以下のような方々の入学を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高等学校卒業相当の学力を有し、それを大学での経営学の学修に活かそうと努める人。 2. 様々な社会現象や国際情勢と、それに伴う人や組織の動きに興味を持ち、自ら主体的に考え行動できる人。 3. 課外活動やボランティア活動、地域の課題解決などにも、積極的に取り組む意欲のある人。 4. 資格取得などを通して特殊技能や語学力を高め、それらを社会で役立てたいという意欲のある人。 5. 社会経験や外国での体験を大学での学修に活かそうと努める人。
学部等名 人文学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.kobegakuin.ac.jp/information/public/ ）
<p>（概要）</p> <p>人文学部人文学科の教育研究上の目的は、人間の行動及びその文化所産の有機的関連を学際的に学ぶことにより、幅広い知識及び教養を身につけ、現代社会の変化に対応できる人材の育成を目指すこととする。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/diploma.html ）
<p>（概要）</p> <p>人文学部では、建学の精神「真理愛好・個性尊重」に則り、人間の心理、行動および文化を学際的に研究し教育することにより、現代社会の大きな変化に対応できる人材の育成をめざしています。この目標を達成するために、人文学部の学士課程教育を通じて、卒業要件を満たして必要な単位を取得し、全学ディプロマ・ポリシーにもとづく以下の能力を修得した者に学位を授与します。</p> <p>（知識・技能）</p>

1. 複数の分野の基礎知識を教養として身につけている。
2. 人間の心理、行動および文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけている。

(思考力・判断力・表現力)

3. 自己の将来を計画的に考え、それを実現に結びつける行動力を身につけている。
4. 獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導くことができる。
5. 相手の意見を正確に理解し、自分の考えや意見を口頭や文章で的確に表現することができる。
6. 情報に潜む危険性を認識したうえで、情報通信技術等を用いて情報を適正につかみ、伝えることができる。

(主体性・協働性)

7. 多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる。
8. 人文学の知見にもとづき、自由で公正で豊かな社会の実現に貢献できる。
9. 将来にわたって知的好奇心を失わず、自立的に深く学修できる。
10. 学部教育と融合した教職教育やインターンシップなどをとおして、学校教育の目的や目標、地域社会の課題を理解し、さまざまな要求や問題解決に取り組み、知識や技能の伸長を図る社会人として活躍することができる。

人文学科

人文学科では、人間行動およびその文化所産との有機的関連を理解し、幅広い知識と教養を身につけ、柔軟で的確に対応できる人材の育成をめざしています。この目標を達成するために、人文学科の学士課程教育を通じて、卒業要件を満たして必要な単位を取得し、全学ディプロマ・ポリシーおよび人文学部ディプロマ・ポリシーにもとづく以下の能力を修得した者に人文学の学位を授与します。

(知識・技能)

1. 複数の分野の基礎知識を教養として身につけている。
2. 自然と人間に関する専門知識や人間の社会的・文化的活動に関する専門知識を総合的、体系的に身につけ、異なる分野の知識が相互に関連することを理解している。

(思考力・判断力・表現力)

3. 自己の将来を計画的に考え、それを実現に結びつける行動力を身につけている。
4. 獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導き、社会的な場において創造性や表現力を発揮することができる。
5. 相手の意見を正確に理解し、自分の考えや意見を口頭や文章で的確に表現することができる。
6. 情報に潜む危険性を認識したうえで、情報通信技術等を用いて情報を適正につかみ、伝えることができる。

(主体性・協働性)

7. 多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、連携・協働を進める社会的実践能力を身につけている。
8. 人文学の知見にもとづき、自由で公正で豊かな社会の実現に貢献できる。
9. 将来にわたって知的好奇心を失わず、自立的に深く学修できる。
10. 学部教育と融合した教職教育やインターンシップなどをとおして、学校教育の目的や目標、地域社会の課題を理解し、さまざまな要求や問題解決に取り組み、知識や技能の伸長を図る社会人として活躍することができる。

人間心理学科

人間心理学科では、人間の心の基礎的な理解を図るとともに、応用・臨床・実践的心理学の諸方面において積極的に貢献できる人材の育成をめざしています。この目標を達成するために、人間心理学科の学士課程教育を通じて、卒業要件を満たして必要な単位を取得

し、全学ディプロマ・ポリシーおよび人文学部ディプロマ・ポリシーにもとづく以下の能力を修得した者に人間心理学の学位を授与します。

(知識・技能)

DP1 知識

1. 既存の心理学専門分野の知識を修得している。
2. 社会人としての幅広い教養を身につけている。

DP2 技能

3. 心理学の専門知識などの既存の知識・情報を検索・入手し知見を広げることができる。
4. 真理を探究し新しい知見を得るために、統計法、研究法など必要な技能を習得している。

(思考力・判断力・表現力)

DP3 思考力・判断力

5. 心理現象について学修した知識を自らの経験と関係づけて解釈することができる。
6. 社会の中で身のまわりにある事象を観察し、問題の有無を適切に判断し、それを解決することができる。

DP4 表現力

7. 心理学的な専門知識や研究の成果を第三者に伝えることができる。
8. 社会の一員として自らの意見や考えを的確に表現することができる。

(主体的に多様な人々と協働する態度)

DP5 主体性・協働性および個性尊重

9. 社会の中で自らが所属するチームの一員として、多様なメンバーの個性を尊重し良好なコミュニケーションをとりながら、主体的な役割を果たすことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/curriculum.html>）

(概要)

人文学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果をもたらすために、次のポリシーにもとづくカリキュラムを作成し、学生たちに提供します。

1. 1・2年次生のテーマ

- ・専攻分野の全体像を提示して大学教育への導入をはかる。
- ・大学での学修に必要な基礎的知識と技能を習得させる。
- ・大学で学ぶために必須の言語能力や情報機器の操作法を習得させる。
- ・社会人として必要な幅広い教養と基礎知識を身につけさせる。
- ・真理を探究しようとする知的好奇心を育てる。

2. 2・3年次生のテーマ

- ・自らの関心領域を総合的かつ体系的に追究させる。
- ・演習・実習など実践的なトレーニングにより専門的な内容を体験的に理解させる。

3. 4年次生のテーマ

- ・それまでの3年間で獲得した幅広い教養と専門的な知識をもとに、自らが設定した課題や問題に対する適切な対処とその解決に導く。
- ・4年間の学修の集大成として、卒業研究・卒業論文を作成させる。

4. 4年間のテーマ（キャリア形成および教職課程）

- ・自立した社会人への成長を支援し、社会で勤労するための基本的能力を備えさせる。
- ・学位プログラムと融合した体系的な教職プログラムを提供し、生徒の「生きる力」を育む教員としての基礎的・基本的な能力を養成する。

人文学科

人文学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果をもたらすために、次のポリシーにもとづくカリキュラムを作成し、学生たちに提供します。

1. 共通教育科目・主に関心分野のテーマ

- ・リテラシー領域の科目をとおして、大学で学ぶために必須の言語能力（日本語および外国語）や情報機器の操作法を習得させる。

- ・リベラルアーツ領域の科目をとおして、政治、経済、法律、心と身体の健康、地域、芸術などについて、幅広い教養を身につけさせる。

2. 学部共通科目・・・4年間のテーマ

- ・1年次では、少人数の演習科目をとおして、大学での学修に必要な技能や知識を身につけさせる。
- ・2年次の実践演習をとおして、さまざまな分野における実践的能力・情報収集力・情報発信力・分析力を身につけさせる。
- ・3年次の専攻演習では、専攻分野の深い専門知識と実践的な技能を身につけさせる。
- ・4年次の卒業研究演習では、習得した深い専門知識と実践的な技能を用いて、自らが設定した課題を追求し、その成果を卒業研究にまとめさせる。

3. 人文の知科目群・・・1年次および2・3年次生のテーマ

- ・人間をとりまく文化や社会に関する基礎的な知識を修得させる。
- ・異なる分野の知識が相互に関連することを理解させる。
- ・フィールドワークや体験学習をとおして、深い専門知識と実践的な技能を連結させる。

4. 人文学専門科目群(人間探究科目群、言語・文学科目群、環境・人類・地域・歴史科目群)・・・主に2・3年次生のテーマ

- ・さまざまな学問分野の専門的な知識と経験を基盤にした豊かな教養を身につけさせる。
- ・選択した学問分野の専門知識を集中的、体系的に理解させる。

5. キャリア科目および教職教育に関連する科目・・・4年間のテーマ

- ・自立した社会人への成長を支援し、社会で勤労するための基本的能力を備えさせる。
- ・専門分野の学修をとおして、各教科の専門的な知識と技能を習得させる。
- ・学修された専門知識を学校での教科指導に活用・応用できる学力を育てる。
- ・参加型授業をとおして、生徒の「生きる力」を育む教員としての基礎的・基本的能力を養成する。

人間心理学科[2017年度入学生]

人間心理学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、共通教育科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講します。

1. 共通教育科目 リテラシー科目群

学部教育の基礎となる技能すなわちリテラシーを修得するための科目群を設定し、大学で学んだ専門知識や教養を社会で活かすために社会への突破口となる基礎思考力、社会人として必要な基礎的な実践能力を育成する。

1・2年次生のテーマ

- ・基本的語学力の修得と社会人としての実用レベルの語学力を獲得させる。
- ・コンピュータの基本的な技能の修得と情報に関する初級レベルの資格取得を目的とさせる。
- ・小論文やレポートの作成法など専門教育の基盤形成、あるいは社会への関門突破のベースとなる基礎的な思考能力や時事問題についての基礎知識などを修得させる。

3年次生のテーマ

- ・社会人として必要な常識、コミュニケーションのとり方、情報収集の方法などのキャリア教育の実施により就業力を向上させる。

2. 共通教育科目 リベラルアーツ科目群

専門分野以外の学問領域のリベラルアーツ科目群では、自らの興味や将来の目標に応じて幅広い教養を修得させる。

1・2年次生のテーマ

- ・各地域の社会と文化、歴史、芸術、人間の精神活動などについて幅広く考察させる。
- ・現代の社会的事象、政治・経済・法律など社会生活にかかわる問題を幅広く考察させる。
- ・人の心と体の健康に関する問題を幅広く考察させる。

- ・地域、防災、社会貢献など、本学の周辺地域環境あるいは海外の大学との提携関係を活かした教育プログラムを展開する。

3. 専門教育科目 講義科目

心理学を社会で実践的に活用する知識技能を獲得させる。

4年間のテーマ

- ・心理学の基礎専門教育科目、発達心理科目、臨床心理科目、医療心理科目、社会心理科目、を1年次から4年次まで段階的かつ重層的に学修させる。
- ・心理統計学や心理研究法の学修をとおして、データを客観的にとらえる分析法や研究手法を習得させる。

4. 専門教育科目 実習科目

社会の中で主体的に他者と良好なコミュニケーションをとり自らの役割を果たすことの重要性を理解させ、心理学を活用して現場で生じる問題の把握とその解決法を模索する力を学修させる。

1年次生のテーマ

- ・さまざまな心理学の世界を体験し、事象の観察力、他者と接する態度・姿勢を学修させる。

2年次生のテーマ

- ・基礎的な実験・観察・調査を行い、詳細なレポートを作成し実験方法やプレゼンテーション法を学修する。

3年次生のテーマ

- ・医療施設・教育施設・更正施設・企業などの学外実地研修を含めた発達心理学、臨床心理学、医療心理学、社会心理学のそれぞれの領域実習に参加させ、心理学を活用して現場で生じる問題の把握とその解決法を模索させる。

5. 専門教育科目 演習科目

社会生活に必要な思考力・判断力・表現力を学修させる。

1年次生のテーマ

- ・パワーポイントやレジュメを用いて発表し、自らの意見や考えを的確にプレゼンテーションする能力を学修させる。

2年次生のテーマ

- ・専門論文の講読を行い、情報収集力、プレゼンテーション能力を学修させる。
- ・心理現象を解明する適切な方法を学修させる。

3年次生のテーマ

- ・調査研究計画を作成し、全体で意見交換をしながらそれを洗練することにより調査研究能力を学修させる。

4年次生のテーマ

- ・実際に調査・研究を行い、卒業論文を作成することにより、社会生活に必要な思考力・判断力・表現力を学修させる。

6. 卒業論文

4年次生の卒業論文では、学修した心理学に関する知識・技能および問題発見力や調査力を用いて自分でやるべきことを見出し、最適な方法を見つけ、遂行し、まとめて適切に発表することができる能力を学修させる。

7. 学部共通科目

人文入門演習において大学生活に必要な知識・技能を獲得させ、キャリア科目・インターシップ科目において社会の中で主体的に活動できる基本的態度を育成する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/admission.html>）

<p>(概要)</p> <p>人文学部は、以下のような人たちの入学を期待しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学で学ぶために必要な高等学校卒業相当程度の基礎学力を有している。 2. 人間とその文化に関心を持ち、理解を深める努力をする。 3. 多様な他者との相互理解に努める態度をもつ。 4. 積極的に社会とかかわる意欲をもつ。 5. 社会での経験や海外での経験を学びに活かす意欲がある。

学部等名 心理学部

教育研究上の目的 (公表方法： https://www.kobegakuin.ac.jp/information/public/)

<p>(概要)</p> <p>心理学部心理学科の教育研究上の目的は、心理学の知識・技能、考え方を体得し、建学の精神「真理愛好・個性尊重」に基づき、多様な人々と協働し、心の健康の増進に主体的に貢献できる人材を養成することとする。</p>

卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/diploma.html)
--

<p>(概要)</p> <p>心理学部では下記の能力を備えた学生に学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の専門知識を習得し、医療・福祉・教育・産業・司法などの分野で専門知識を生かすことができる。 2. 社会人として幅広い教養を身につけている。 3. 心理現象を解明する適切な方法を駆使し、探求することができる。 4. 社会の中で身の回りにある事象を観察し、問題の有無を適切に判断し、それを解決することができる。 5. 心理学の専門知識や研究成果を第三者に適切に伝えることができる。 6. 社会の一員として自らの意見や考えを的確に話し書くことができる。 7. 社会の中で自らが所属するチームの一員として多様なメンバーと良好なコミュニケーションをとり、主体的な役割を果たすことができる。 8. 教育現場で有効な、公民に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/curriculum.html)
--

<p>(概要)</p> <p>心理学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような方針に基づき、教育課程を編成します。</p> <p>1. 教育内容</p> <p>1. 共通教育科目 (リテラシー領域)</p> <p>1-1. 言語分野 英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・ロシア語・日本語 (留学生対象) の基本的語学力の修得と社会人としての実用レベルの語学力の向上を目的とする。</p> <p>1-2. 情報分野 インターネット・メール・ワード・エクセル・パワーポイント・プログラミングなど社会の必須アイテムとなったコンピュータの基本的な技能、および情報に関する初級レベルの資格取得に足る知識の修得を目的とする。</p> <p>1-3. 基礎思考分野 小論文やレポートの作成法など専門教育の基盤形成、あるいは就職試験や公務員試験など社会への関門突破のベースとなる基礎的な思考能力や時事問題についての基礎知識などを修得することを目的とする。</p>
--

1-4. 高大接続分野

「大学での学びへのソフトランディング」として、学部的基础教育科目につなげるべく、高等学校での教科科目と学部教育との接続を目的とした「入学生の学び直し」を目的とする。

1-5. キャリア教育分野

1年次生から就職活動に向けて、自己理解を深め、現場の知識を学ぶことで、就業力の向上を目的とする。

1-6. 国際化推進分野

日本語を母語としない留学生が日本語を身に付け、日本への理解を深めること、学生同士が互いに交流を深めること、短期海外研修で語学力を向上させることなどを目的とする。

2. 共通教育科目（リベラルアーツ領域）

初年次を中心に開講する共通教育科目では所属学部の専門分野以外の学問領域の魅力を知りやすく伝えるためのリベラルアーツ領域を設定し、幅広い教養を修得できるようにする。この中には心理学部の学生が履修できる以下の4分野があり、多様な科目の中から自らの興味や将来の目標に応じて科目を選択できる。

2-1. 神戸学院教養分野

ジェンダー論、男女共同参画推進論、文理10学部の総合大学としての強みを生かした教養（リベラルアーツ）科目を展開し、文化・社会・自然に対して幅広く考察する。

2-2. 地域学分野

本学の周辺地域環境を活かした教育プログラムを展開し、観光や地域理解について幅広く考察する。

2-3. 芸術分野

美術、音楽などの芸術分野において、少人数クラスでの演習科目を含めた教育プログラムを展開し、芸術について幅広く考察する。

2-4. スポーツ科学分野

スポーツ科学において、少人数クラスでの演習科目を含めた教育プログラムを展開し、スポーツ科学について幅広く考察する。

3. 専門教育科目 講義科目群

3-1. 基礎講義科目群

基礎講義科目では、心を生み出す仕組みや認知と行動の多様性に関わる基礎的理論を「行動科学概論」で学修し、心のはたらきを実証に基づいて理解するための研究や調査の方法の基礎について「心理調査概論」で学修する。

3-2. 専門講義科目群

専門講義科目では生物-心理-社会モデルを念頭におき、より発展的な心理学の知識と技能を学修する。生物学的機構・医療に関わる心理学科目として、「人体の構造と機能（人体の構造と機能及び疾病）」、「精神疾患とその治療」や、「行動神経学」などを学修する。心理学主要領域における一般法則や理論（モデル）、学説を学ぶ心理学科目として、「心理学概論」や「認知心理学（知覚・認知心理学）」、「人格心理学（感情・人格心理学）」、「発達心理学」、「学習心理学（学習・言語心理学）」などを学修する。社会文化的機構に関わる心理学科目として、「心理専門職関係行政論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（関係行政論）」などを学修する。また、生物学的機構・医療を踏まえた心理学主要領域における一般法則や理論、学説を学ぶ心理学科目として、「生理心理学（神経・生理心理学）」や、「神経心理学（神経・生理心理学）」、「医療心理学（健康・医療心理学）」などを学修する。社会文化的機構を踏まえた心理学主要領域における一般法則や理論、学説を学ぶ心理学科目としては、「社会心理学（社会・集団・家族心理学）」や「集団心理学（社会・集団・家族心理学）」、「消費者心理学」を学修する。さらに、心のはたらきを実証に基づいて理解するため、より専門的な心理統計や研究方法について学ぶ心理学科目として、「心理学研究法」や「心理統計入門」、「心理統計法（心理学統計法）」を学修する。これらの学修を通じて心理学

を社会で実践的に活用する知識と技能の獲得を目的とする。

心理専門職を目指し公認心理師への対応を考慮した心理学科目としては、上述した発展的な心理学の知識と技能を学修する心理学科目に加えて、心理学的な支援に関して学ぶ、「心理専門職入門（公認心理師の職責）」や、「臨床心理学概論」、「心理学的支援法Ⅰ・Ⅱ」といった心理学科目を学修する。さらに、医療、福祉、教育、産業、司法の各分野における心理支援の実践を学ぶ科目として、「学校心理学（教育・学校心理学）」や、「福祉心理学」、「産業・組織心理学」、「司法犯罪心理学（司法・犯罪心理学）」などを心理学科目も学修する。

4. 専門教育科目 実習科目群

4-1. 基礎実習科目群

初年次の「心理学入門実習Ⅰ・Ⅱ」では、さまざまな心理学の世界を「体験し」、事象の観察力、他者と接する態度・姿勢を学修する。「心理学入門実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ」では心理現象を生み出す仕組みとして生物学的・認知的・社会文化的機構を反映した医療心理学、発達心理学、臨床心理学、社会心理学の初歩的な研究手法について、実習体験を通して主体的に学修する。

4-2. 専門実習科目群

2年次の「心理学基礎実験実習Ⅰ・Ⅱ（心理学実験）」では、心理検査や調査の実施、系列位置学習効果の検討や大脳モデルのデッサンなど基礎的な実験・観察・調査を行い、詳細なレポートを作成し実験方法やプレゼンテーション法を学修する。3年次の「心理学専門実習Ⅰ・Ⅱ」では、より専門的な研究法を主体的に体験・実演することを通して、各種研究法の理解を深める。これら科目においては、社会の中で身のまわりにある事象を観察し、問題の有無を適切に判断し、それを解決するために心理学の研究手法を利用できることを目指す。こうした取り組みにより、社会の中で主体的に他者と良好なコミュニケーションをとり自らの役割を果たすことの重要性を理解することと、心理学を活用して現場で生じる問題の把握とその解決法を模索する力を学修することを目的とする。

心理専門職を目指し公認心理師への対応を考慮した実習科目としては、上述した「心理学基礎実験実習Ⅰ・Ⅱ（心理学実験）」の学修に加えて、4年次の「専門職心理実習Ⅰ・Ⅱ（心理実習）」において、医療施設や福祉施設、教育施設、矯正施設、就労支援施設、企業などの学外実地研修を行い、心理専門職として他職種と連携し、心理学の実践を学修する実習をそれぞれ行う。

5. 専門教育科目 演習科目群

5-1. 基礎演習科目群

初年次の「心理学入門演習Ⅰ・Ⅱ」では、大学で必要な基本的な学修技術を修得し、自らの意見や考えを的確にプレゼンテーションする能力を学修する。2年次の「心理学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」では、原著論文や総説などの専門論文の講読を行い情報収集力、プレゼンテーション能力を学修するとともに心理現象を解明する適切な方法を学修する。

5-2. 専門演習科目群

3年次の「心理学専門演習Ⅰ・Ⅱ」では、卒業論文の作成過程に見通しをつけ、研究計画を作成する。「講読演習Ⅰ・Ⅱ」では、様々な領域の心理学の学術論文を読み、論文要旨を理解し、それらを適切に発表する。これらを通し、社会生活に必要な思考力・判断力・表現力を学修することを目的とする。4年次の「心理学発展演習Ⅰ・Ⅱ」では、実際に実験・調査などの研究を行い、学修の集大成としての卒業論文につなげていく。

心理専門職を目指し公認心理師への対応を考慮した演習科目としては、「専門職心理演習Ⅰ・Ⅱ（心理演習）」において公認心理師として必要な知識や技能の基本的な水準の修得を目的とし、具体的な場面を想定したロールプレイや事例検討を行う。また、「専門職心理演習Ⅲ（心理演習）」では、支援方法や多職種連携など現場実習と関連する様々な事項の基本的な水準の実践的な修得を目指す。

6. 卒業論文

「卒業論文」ではそれまでに学修してきた心理学やそれにとどまらない幅広い知識・技能と問題発見力や調査力を用いて自分でやるべきことを見出し、そのための最適な方法を見つけ、遂行し、まとめて適切に発表することができる能力を学修する。具体的には演習科目群の中で具体的な調査・研究計画を立案・遂行し論文を作成する。卒業論文の授業を通して、心理学の知識の体系化をはかり、研究成果を効果的に伝える技能を学ぶだけでなく、他の様々な観点を持つ受講生と協働して学び、主体的に研究を遂行する態度を獲得することを目指す。

2. 教育方法

1. 共通教育科目

初年次を中心に開講する共通教育科目群では学部教育の基礎となる技能すなわちリテラシーを修得するための科目群を設定し、大学で学んだ専門知識や教養を社会で活かすために社会への突破口となる基礎思考力、社会人として必要な基礎的な実践能力を育成する。

2. 専門教育科目

専門教育科目の基礎科目群と専門科目群のどちらも、講義科目・演習科目・実習科目を1年次から4年次まで段階的かつ重層的に配当する。また、授業形態の特性を生かし、主体的な学びを支援する。

基礎科目群では、心理現象を解明する適切な方法を身につけ、社会の中で身の回りにある事象を観察・判断・問題解決できる基礎的技能と能力を身につけさせる。また、心理学の専門知識の基本的部分を理解し、それらに対する自らの意見や考えを的確に伝達する方法も学修させる。

専門科目群では、心理学のより発展的・実践的な専門知識を修得し、医療・福祉・教育・産業・司法などの分野で専門知識を生かす方法を学修させる。心理学の専門知識や研究成果を適切に伝達する方法を修得させ、社会の中で自らが所属するチームの一員として多様なメンバーと良好なコミュニケーションをとり、主体的な役割を果たせる態度を身につけさせる。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/admission.html>）

（概要）

心理学部は、神戸学院大学の建学の精神「真理愛好・個性尊重」および心理学部が掲げるディプロマ・ポリシーの主旨に賛同し、その獲得をめざして学ぶ意欲がある以下のような人たちの入学を期待しています。

1. 大学で学ぶために必要な高等学校卒業相当程度の基礎学力を有している。
2. 心理現象に関心をもち、理解を深める努力をする。
3. 多様な他者との相互理解に努める態度をもつ。
4. 積極的に社会とかかわる意欲をもつ。
5. 社会での経験や海外での経験を学びに活かす意欲がある。

学部等名 現代社会学部

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.kobegakuin.ac.jp/information/public/>）

（概要）

現代社会学部の教育研究上の目的は、グローバルな視野と社会貢献マインドの育成を図りながら、理論と実践双方で得られた智慧を地域の中で応用・展開できる人材の育成を目指すこととし、学科ごとの目的については次のとおりとする。

ア 現代社会学科の目的は、地域社会のありようを、学際的アプローチを通じて多面的総合的に把握し、分析できる人材の育成を目指すこととする。

イ 社会防災学科の目的は、社会に貢献するマインドと能力を持った人材及び防災と社会貢献に関する専門的知識を身につけた人材の育成を目指すこととする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/diploma.html>）

（概要）

所定の社会科学及び人文科学を中心とした学際的な学修を通じて、（1）現代社会の多面的、総合的な理解、（2）諸課題の発見・把握及びその解決策の探求と実践、（3）グローバルな視野と豊かな教養による社会への貢献を行うことができる社会人の育成を目的とし、これらの能力の獲得と学部・学科カリキュラムに規定する所定単位の修得をもって、学士課程の学位を授与する。

現代社会学科

（知識・技能）

1. 社会科学及び人文科学の学際的な学修を通じて、現代社会における人びとの暮らし、仕事と産業、および文化の形成に係る諸事象を多面的、総合的に理解し、その知識を活用することができる。

（思考力・判断力・表現力等の能力）

2. 現代社会における人びとの暮らし、仕事と産業、および文化の形成における諸問題を学際的かつ科学的に発見・把握するとともに、解決の方途を探究し、自らその解決策を実践することができる。

（主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度）

3. グローバルな視野を有した一市民としての自覚と自ら成長し続ける意欲を有するとともに、価値観、意見、立場の異なるさまざまな人びとと議論し、学びを深め、協働して社会に貢献することができる。

以上に掲げる能力の獲得と学科カリキュラムに規定する所定単位の修得をもって、学士課程の学位を授与する。

社会防災学科

（知識・技能）

1. 社会科学及び人文科学を中心とした学際的な学修を通じて、現代社会で起こりうる災害に対する事前の備えや、事後の社会的混乱の最小化を実現するための専門知識を身につけて活用することができる。

（思考力・判断力・表現力等の能力）

2. 現代社会における防災に係る社会的諸問題を学際的かつ科学的に把握するとともに、解決の方途を探究し、自らその解決策を実践することができる。

（主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度）

3. グローバルな視野を有した一市民としての自覚と自ら成長し続ける意欲を有するとともに、価値観、意見、立場の異なるさまざまな人びとと議論し、学びを深め、協働して社会に貢献することができる。

以上に掲げる能力の獲得と学科カリキュラムに規定する所定単位の修得をもって、学士課程の学位を授与する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/curriculum.html>）

（概要）

現代社会学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、共通教育科目、専門教育科目を体系的に編成し、以下に掲げる教育内容、教育方法、教育評価の方針に基づき、講義、演習、実習を適切に組み合わせたカリキュラムを提供する。

1. 教育内容

1. 共通教育科目（主に1～2年次）

教養教育・基礎教育を充実させる目的で開講され、学部教育の基礎となる技能、専門を超えて将来社会人として必要とされる基礎思考力等、基礎的な実践能力を育成するための領域で、リテラシー領域・リベラルアーツ領域の2領域から構成される。

2. 学部共通科目（主に1～2年次）

学際的アプローチのための各学問分野の基礎を学ぶ科目群と、グループ・アプローチ、ファシリテーター・トレーニング、インターンシップ、キャリアプランニングといった実践力、行動力の基礎を身につける実習科目群から構成される。

3. 専門基幹科目（主に1～3年次）

各学科ごとに「ゼミナール（4年間継続する【4年次後期は卒業研究と称する】）」、「専門共通」、「共通実習」、「専門語学」の4フィールドから構成され、「（4）専門分野科目」理解のための基礎を形成する。内容は各学科ごとに以下のとおりである。

現代社会学科

「専門共通」

社会学の基幹的な科目を中心に、専門的な知識を総合的、体系的に学び、専門分野科目理解の基礎形成を目的とする。

「共通実習」

現代社会基礎実習、現代社会実習から構成され、事例聞き取り調査等フィールドワークや、アンケート調査の技法を学び、社会把握の方法を深めることを目的とする。

「専門語学」

現代社会に関わるテーマについて、英語でのコミュニケーション力を培い、国際的視野の陶冶と国際感覚の修得を目的とする。

社会防災学科

「専門共通」

防災・減災の基礎を学際的に理解すると同時に、防災のために必要となる社会貢献マインドの育成、また防災の社会的・国際的発展の基礎的な理解を目的とする。

「共通実習」

救命処置実習、海外実習、国内実習、プロジェクト実習から構成され、人命救助方法の修得や国際理解及び実践力陶冶を目的とする。

「専門語学」

社会貢献として防災においても求められる国際協力において必要となる国際的視野の陶冶と国際感覚の修得を目的とする。

4. 専門分野科目（1～4年次）

各学科ごとに専門科目を分野に分け、1年次の基礎段階から体系的な履修を促す。内容は各学科ごとに以下のとおりである。

現代社会学科

個人や家族のくらしの在り方と課題を学ぶ「市民と生活」、社会の経済的側面及びその課題を職業と産業の視点から学ぶ「仕事と産業」、コミュニティのあり方とそこに生まれる文化および情報に関する諸課題に接近する「地域と文化」の3分野から構成され、現代社会の多面的・総合的な理解、実践的課題の抽出とともに、課題解決力の育成を目的とする。

社会防災学科

防災のさらなる専門的応用について学ぶ「防災と市民・行政」と、防災の社会的・国際的展開についてさらに深く学習する「防災と社会貢献・国際協力」から構成され、防災に係る多面的・総合的な理解、実践的課題の抽出とともに、課題解決力の育成を目的とする。

5. 関連科目（1～4年次）

学科の枠を超えて他学科の専門科目を履修することができるよう、他学科開講科目の一定範囲の科目を関連科目として学修し、幅広い視野を身につけることを目的とする。

2. 教育方法

専門教育科目においては、講義、演習、実習の3種類を効果的に配置し、それぞれの授業形態の特性を活かしたアクティブラーニングを実施する。とくに演習、実習においては課題解決型もしくはPBLの手法を多く取り入れ、学生による主体的な学びを促進する。

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/admission.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>現代社会学部は、学際的及び実践的な学びを重視し、社会の様々な分野の問題解決にチャレンジし、社会貢献を実践できる社会人を育成するため、以下のような方々の入学を期待しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学で学ぶために必要な高等学校卒業相当程度の基礎学力を有している人（知識・理解） 2. 社会や人間に対する関心を持つとともに、それを深く理解しようとする人（関心・態度） 3. 課題を発見、分析し、解決しようとする志向性を有している人（思考・判断） 4. 自分の経験や考えを的確に表現するとともに、それを他者と交換しようとする人（技能・表現）
<p>学部等名 グローバル・コミュニケーション学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.kobegakuin.ac.jp/information/public/）</p>
<p>（概要）</p> <p>グローバル・コミュニケーション学部の教育研究上の目的は、外国語の実践的で高度な運用能力とともに、言語の基礎にある文化や社会の多様性に配慮できる幅広い知識や教養、また他者と協調、協働できるたくましい対人コミュニケーション力を備え、よってグローバル社会においてもアイデンティティを堅持し、豊かな国際社会の創造に貢献しうる人材を養成することとする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/diploma.html）</p>
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実践的で高度な外国語の運用ができる 2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる 3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる 4. （英語コース）教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/curriculum.html）</p>
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学部基礎科目（第1～4セメスター） 専攻分野の全体像を提示して大学教育への導入をはかります。 大学での学習に必要な最低限の知識と技能を習得します。 自分と他者との相互理解を実現するコミュニケーションスキルを養成します。 2. 共通教育科目（主に第1～4セメスター） コースで学ぶ外国語とは異なるもう一つの外国語を学びます。 情報機器の操作法など大学で学ぶために必須のリテラシーを習得します。 社会人として必要な幅広い教養と基礎知識を身に付けます。 真理を探究しようとする知的好奇心を育みます。 3. 基本語学と実践語学（第1～7セメスター） 高度な外国語能力の獲得と、それを実社会で実践的に運用する方法を学びます。 4. 学部・各コース講義科目（第1～7セメスター） 語学力を鍛えるとともに、言語の基礎にある社会や文化について学びます。 言語習得を通して、社会で勤労するための基本的能力を備えます。 演習形式で専門的言語学の考察の方法を体験的に学びます。

<p>学部理念である言語とグローバリズムについて理解します。</p> <p>5. 他学部関連科目（第3～6セメスター） 総合大学の利点を生かし、より広い専門分野を学ぶ。</p> <p>6. 海外語学研修（留学）・企業インターンシップ（第4～6セメスター） 第5セメスターに、海外あるいは実社会を実際に経験し、グローバル・コミュニケーションの重要性を体験的に理解します。またそのために海外語学研修、企業インターンシップの前後に「事前研修」と「フォローアップ」を用意して、現地研修の成果をより確かなものにします。</p> <p>7. 卒業研究を必修（第8セメスター） 自らが設定した課題を4年間で修得した幅広い教養と専門的知識で説明します。他者とコミュニケーションをはかり、協働作業で卒業研究報告書を作成します。課題説明への過程をまとめあげ、卒業論文に結実させます。</p> <p>8. 教職課程（英語）に関する科目（第1～8セメスター） 英語の教員を志す学生は、教職に必要な知識や能力を身に付けます。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/admission.html）</p>
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学で学ぶために必要な高等学校卒業相当程度の基礎学力を有し、本学の教育理念の趣旨に賛同する人 2. 世界の社会と文化、また人間と言語に対して強い関心を持つとともに、それを理解し、実践的な知識や能力にするため、ひたむきに努力できる人 3. 他者と積極的にコミュニケーションをはかり、広く国際的な場で他者と協調・協働しながら、よりよい社会を生み出そうとする人 4. 教員として社会で活躍したいと考え、英語についての基本的能力を持ち、さらに専門的研究を深めようとする人 5. 卒業後も真理を愛好するものとして、学びを続け、積極的に社会に貢献しようとする人 <p>このポリシーに基づき、それを実現するような学生の入学を求め、入学者選抜においては厳密公正に行うこととする。</p>

<p>学部等名 総合リハビリテーション学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.kobegakuin.ac.jp/information/public/）</p>
<p>（概要）</p> <p>総合リハビリテーション学部の教育研究上の目的は、理学療法士、作業療法士、社会福祉士及び精神保健福祉士の資格取得を基本としながら、活動制限や参加制約のある人々の生活機能の維持回復を目指すため、専門知識及び技術を修得し、広く社会に貢献する人材を養成することとし、学科ごとの目的については次のとおりとする。</p> <p>ア 理学療法学科の目的は、医療及び社会の要請により理学療法の対象範囲が拡大しているなか、疾病又は障害を有する人の機能障害・活動制限・社会参加制約の改善に加えて、健康の維持・増進から在宅生活支援までを含む、多様な対応を担うことができる理学療法士を養成することとする。</p> <p>イ 作業療法学科の目的は、医療及び社会の要請により作業療法の対象範囲が拡大しているなか、身体機能・精神機能の回復、社会適応能力・対人関係能力の改善、発達機能の向上等、作業療法の多様な対応を担うことができる作業療法士を養成することとする。</p> <p>ウ 社会リハビリテーション学科の目的は、社会福祉士及び精神保健福祉士の資格取得を基本とし、人と生活環境に関わる上での前提となる価値及び倫理の基盤に立ち、現状を把握し、将来への展望を持つた社会福祉実践に必要な専門知識及び技術を修得した人材を養成することとする。</p>

卒業の認定に関する方針（公表方法：<https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/diploma.html>）

（概要）

（主体的に学習に取り組む態度）

1. 本学の卒業生は、一般教養とその裏付けとなる基礎教育を重視し、人文・社会科学や自然科学の知識と「真理愛好・個性尊重」に裏付けられた人間教育を享受し、現代に生きる社会人としての人格形成に努めることができる。

（知識・技能）

2. 本学の卒業生は、理学療法士・作業療法士・社会福祉士・精神保健福祉士の国家資格を取得できる知識・技能を身につけている。

（思考・判断・表現）（主体的に学習に取り組む態度）

3. 本学の卒業生は、リハビリテーションに関する広範な知識を修得するとともに、臨床現場、地域社会、企業等において、リハビリテーションサービスを必要とする人・生活上の困難を抱えた人に対応することができる。

（思考・判断・表現）（主体的に学習に取り組む態度）

4. 本学の卒業生は、リハビリテーションの広範かつ専門的な知識・技能・態度を修得するとともに、保健・医療・福祉の現場および地域社会での課題を解決し、チーム医療や総合的福祉、地域社会開発の担い手となることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/curriculum.html>）

（概要）

総合リハビリテーション学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成します。

1. 教育内容

1. 「共通教育科目」においては、「リテラシー領域」と「リベラルアーツ領域」の履修を通して、語学及び人文・社会科学や自然科学の知識などの一般教養を学びます。
2. 「リテラシー領域」では、学部専門教育の基礎となる技能、社会人として必要とされる基礎的な思考力や実践能力を育成します。
3. 「リベラルアーツ領域」では、総合大学の強みを生かして、専門の枠を超える広い視野と柔軟な思考力を育成します。
「専門教育科目」は、以下の専門的な知識と思考力を育成するために体系的に編成されています。
4. 理学療法士、作業療法士、社会福祉士、精神保健福祉士の国家資格を取得するために必要な知識、技能、思考力、判断力および表現力を育成します。理学療法学科では、健康運動実践指導者認定試験受験資格に必要な知識、技能、思考力、判断力および表現力を育成します。
5. 保健・医療・福祉分野に従事する者として必要とされる専門的な知識、技能、態度、思考力、判断力、表現力を育成します。
6. 専門職連携の必要性和意義を理解し、専門職の独自性と協調性について熟達し、さらに開発に繋げられる、知識、技能、態度、思考力、判断力、表現力を育成します。
7. 地域社会と国際社会に貢献できる能力を育成します。
8. 学際領域や地域との連携・協働を通じて実践力を育成します。

2. 教育方法

理学療法学科

1. 保健・医療・福祉分野に従事する者として必要とされる知識の修得のために、重点的に講義を実施します。
2. 保健・医療・福祉分野に従事する者として必要とされる知識、技能、思考力・判断力、意欲・態度の修得のために、演習及び実習を実施します。主体的な学びを促進するため

に、アクティブ・ラーニングを取り入れた問題解決型の教育方法を採用します。

3. 保健・医療・福祉分野に従事する者として必要とされる、実践的な技能、思考力・判断力、意欲・態度の修得のために、学外の医療施設及び福祉施設等で、各学年において臨床実習を実施します。

作業療法学科

1. 保健・医療・福祉分野に従事する者として必要とされる知識の修得のために、重点的に講義を実施します。
2. 保健・医療・福祉分野に従事する者として必要とされる知識、技能、思考力・判断力、意欲・態度の修得のために、演習及び実習を実施します。主体的な学びを促進するために、アクティブ・ラーニングを取り入れた問題解決型の教育方法を採用します。
3. 保健・医療・福祉分野に従事する者として必要とされる、実践的な技能、思考力・判断力、意欲・態度の修得のために、学外の医療施設及び福祉施設等で、各学年において臨床実習を実施します。
4. 作業療法は心身両方にアプローチする領域であるので、多分野にわたった学際的な学びを展開するための講義・実習を実施します。

社会リハビリテーション学科

1. 初年次より4年間、少人数ゼミの履修を必修とし、自分の考えを明確に持ち、集団のなかで発言することを繰り返し行い、専門的な知識を身につける教育を実施します。
2. 社会福祉および保健医療現場、企業やNPOなどにおいて有用な人材として活躍できるよう、2年次後期からのコース選択を実施し、より専門的、かつ重点的な講義を実施します。
3. 多様な社会福祉援助技術、生活問題の解決能力の習得のため、相談援助演習や社会福祉現場での実習を行い、それらの経験の学びの振り返りを促し、きめ細かな授業を実施します。
4. 大学近隣の地域をフィールドとし、少子高齢化など様々な社会問題に取り組むアクティブ・ラーニングを取り入れ、広い視野で、自ら考え行動できる実践的な教育方法を採用します。
5. ユニバーサルデザインや福祉用具、住環境など人々を取り巻く環境に対して提案のできる、専門的かつ実践に強い人材を育成するために、最新設備が備わった実習室における主体的な教育を実施します。

3. 評価方法

理学療法学科

1. 保健・医療・福祉分野に従事する理学療法士の国家試験合格に必要な知識の評価に、論述試験・口頭試験・客観試験を実施します。
2. 保健・医療・福祉分野に従事する理学療法士の国家試験合格に必要な知識、技能、思考力・判断力、意欲・態度をシミュレーションテスト・実地試験・観察記録法・卒業論文で評価します。

作業療法学科

1. 保健・医療・福祉分野に従事する作業療法士の国家試験合格に必要な知識の評価に、論述試験・口頭試験・客観試験を実施します。
2. 保健・医療・福祉分野に従事する作業療法士の国家試験合格に必要な知識、技能、思考力・判断力、意欲・態度をシミュレーションテスト・実地試験・観察記録法・研究論文で評価します。

社会リハビリテーション学科

1. 社会福祉に関連する様々な分野に従事する社会福祉士や精神保健福祉士の国家試験合格に必要な知識の評価に、発表報告・論述試験・客観試験を実施します。

2. 社会福祉に関連する様々な分野に従事する社会福祉士や精神保健福祉士の国家試験合格に必要な知識、技能、思考力・判断力、意欲・態度を演習・実習の参加状況・作成された記録やレポートを通し評価します。
3. 社会的課題や問題に対して具体的な解決策や行動計画を提案できる知識と思考力、および判断力を、発表内容や実習の参加状況などを通し評価します。
4. DP で掲げられた能力の形成的評価を行うために、毎学期、履修系統図（カリキュラムマップ）を活用して、ゼミ教員による面談を実施します。
5. 4年間の総括的な学習成果については、卒業論文によって評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/admission.html>）

（概要）

教育目標

総合リハビリテーション学部では、専門的な視点を持ちつつも人間性や協調性に優れ、対象となる人々がその人らしい生き生きとした人生を送れるよう包括的に支援できる人材を育成します。

求める学生像

1. 入学後の修学に必要な基礎学力を有している人。（知識・理解）
2. 分かりやすい言葉を用いて発表したり、文章を作成できる人。（思考・判断・表現）
3. 受身の学習だけでなく能動的な学習にも取り組める人。（関心・意欲）
4. 人への関心が高く、専門職を目指す意志を持ち、協調性に優れ協働しながら課題に取り組める人。（態度）

入学者選抜の基本方針

1. 高校で習った科目の基礎的な学力を重視します。
2. 単に覚えた知識だけでなく応用力を重視します。
3. 公募制推薦入試では、調査書の評定を評価に加えます。
4. 面接を課す入試では、学力試験では分からない共感力や向上心も評価します。

理学療法学科

教育目標

理学療法学科では、保健・医療・福祉の領域で活躍しうる理学療法士を育成します。

求める学生像

1. 入学後の修学に必要な基礎学力を有している人。（知識・理解）
2. 自分の知識や考えを適切に整理し、相手に分かりやすく伝えることができる人。（思考・判断・表現）
3. 入学後も目標に向けた学習を継続できる人。（関心・意欲）
4. 人への関心が高く、保健・医療・福祉の分野に貢献したいという情熱を持っている人。（関心・意欲）
5. 幅広い人間性や協調性を有し、周囲の人と良好な関係を保つことができる人。（態度）

入学者選抜の基本方針

理学療法学科では、一般入試（前期日程、中期日程、後期日程）のほか、公募制推薦入試および大学入試センター試験利用入試等複数の入学者選抜方式を採用し、多様な人材を受け入れることをめざしています。

一般入試

入学後の修学に必要な基礎学力の学習達成度を測るため、指定した教科・科目の学力検査を行います。（知識・理解）

公募制推薦入試

指定した教科・科目に対して、学習達成度を測るための学力検査に加えて、調査書の評定点や学業以外に成果も評価します。（知識・理解）（関心・意欲）

大学入試センター試験利用入試

大学入試センター試験受験科目のうち、指定した科目で評価します。（知識・理解）

神戸学院大学附属高校特別入試

本学の教育理念と本学科の教育目標をよく理解し、高等学校で勉学に真摯に取り組み、様々な活動をした人を求めます。書類審査（課題レポート）、面接で選考します。（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度）

作業療法学科

教育目標

作業療法学科では、対象者の年齢（子どもからおとしよりまで）・障がい（こころとからだ）を問わず、医療機関、福祉・保健施設、学校、在宅など幅広い分野・領域において、適切な作業療法を実践するための知識と技術を修得した作業療法士を育成します。

求める学生像

1. 入学後の修学に必要な基礎学力を有している人。（知識・理解）
2. 分かりやすい言葉を用いて発表したり、文章を作成できる人。（思考・判断・表現）
3. 受身の学習だけでなく能動的な学習にも取り組める人。（関心・意欲）
4. 人への関心が高く、専門職を目指す意志を持ち、協調性に優れ協働しながら課題に取り組める人。（態度）

入学者選抜の基本方針

作業療法学科では、一般入試（前期日程、中期日程、後期日程）のほか、公募制推薦入試および大学入試センター試験利用入試等複数の入学者選抜方式を採用し、多様な人材を受け入れることをめざしています。

一般入試

入学後の修学に必要な基礎学力の学習達成度を測るため、指定した教科・科目の学力検査を行います。（知識・理解）

公募制推薦入試

指定した教科・科目に対して、学習達成度を測るための学力検査に加えて、調査書の評定点や学業以外に成果も評価します。（知識・理解）（関心・意欲）

大学入試センター試験利用入試

大学入試センター試験受験科目のうち、指定した科目で評価します。（知識・理解）

指定校推薦入試

高等学校在学中の学業や課外活動の成果を尊重し、創造的思考力・問題解決力等の面で豊かな可能性を具えた人を求めます。（知識・理解）（思考・判断・表現）

調査書の評定点や課外活動など学業以外の成果を評価します。（関心・意欲・態度）（技能）

神戸学院大学附属高校特別入試

本学の教育理念と本学科の教育目標をよく理解し、高等学校で勉学に真摯に取り組み、様々な活動をした人を求めます。書類審査（課題レポート）、面接で選考します。（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度）

社会リハビリテーション学科

教育目標

社会福祉および保健医療現場、企業やNPOなどにおいて将来活躍できる人材を育成します。ユニバーサルデザインや福祉用具、住環境など人々を取り巻く環境に対して提案の

できる、専門的かつ実践に強い人材を育成します。

求める学生像

1. 人への関心が高く、専門職を目指す意志を持ち、協調性に優れ協働しながら課題に取り組める人。（知識・理解）
2. 分かりやすい言葉を用いて発表したり、文章を作成できる人。（思考・判断・表現）
3. 受身の学習だけでなく能動的な学習にも取り組める人。（関心・意欲・態度）

入学者選抜の基本方針

社会リハビリテーション学科では、一般入試（前期日程、中期日程、後期日程）のほか、A0入試、公募制推薦入試、大学入試センター試験利用入試等を採用し、多様な人材を受け入れることをめざしています。

一般入試

基礎的学力や応用力を備え、高い学習意欲を有している人を求めます。（知識・理解）
指定した教科・科目の学習達成度を測るための学力検査を行います。

大学入試センター試験利用入試

基礎的学力が体系的に身につけており、高い学習意欲を有している人を求めます。（知識・理解）

公募制推薦入試

高等学校で勉学に真摯に取り組む一定レベルの学力を修得したと認められ、これに加えて、課外活動、外国語の習得、スポーツや芸術分野への優れた取り組みも評価の対象とします。書類審査と基礎的な適性調査により選考します。（知識・理解）（関心・意欲・態度）

神戸学院大学附属高校特別入試

本学の教育理念と本学科の教育目標をよく理解し、高等学校で勉学に真摯に取り組む、様々な活動をした人を求めます。書類審査、小論文、面接で選考します。（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度）

指定校推薦入試

高等学校在学中の学業や課外活動の成果を尊重し、創造的思考力・問題解決力等の面で豊かな可能性を具えた人を求めます。（知識・理解）（思考・判断・表現）
調査書の評定点や課外活動など学業以外の成果を評価します。（関心・意欲・態度）（技能）

A0入試

高等学校もしくは中等教育学校において積極的な学習意欲をもちながら、課外活動やボランティア等の社会活動を行うことによって人間的成長を遂げ、それを自分自身の魅力としてアピールできることを評価します。（思考・判断・表現）
本学科の教育目標をよく理解していることが求められます。（関心・意欲・態度）
書類審査、小論文、面接で選考します。（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度）

指定クラブ強化入試

高等学校もしくは中等教育学校において、スポーツ・文化活動面で優れた能力を発揮し、大学教育を受けるために必要な基礎学力を有し、入学後も勉学と課外活動を両立させる強い意志をもつ人を対象とします。（技能・表現）
書類審査、面接で選考します。（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度）

外国人留学生入試

定められた教育を外国で受けて、本学科の授業を理解できる日本語能力を身につけた外国人を対象とします。（技能・表現）

書類審査、小論文、面接で選考します。（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度）
<p>帰国生入試 帰国生を対象としています。 書類審査、小論文で選考します。（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度）</p> <p>社会人入試 旺盛な勉学意欲をもつ社会人を対象とします。 書類審査、小論文、面接で選考します。（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度）</p>

学部等名 栄養学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.kobegakuin.ac.jp/information/public/ ）
<p>（概要） 栄養学部栄養学科の教育研究上の目的は、栄養学についての総合的な知識及び技術を修得し、それを実社会において実践できる学士(栄養学)の育成を目指すとともに、優れた管理栄養士を養成することと、栄養学的な視点から健康の維持増進に貢献できる臨床検査技師及び栄養教諭を養成することとする。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/diploma.html ）
<p>（概要）</p> <p>思考・判断</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科学的根拠に基づいて人の健康について考察できる。 2. 栄養学・保健衛生学の学問領域において的確に判断できる。 <p>関心・意欲</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 予防医学の知識を使って、地域住民の健康増進に意欲をもって寄与できる。 2. 我が国の超高齢社会に対して関心を持ち、生活習慣病の予防に強い意欲を持っている。 <p>技能・表現</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の考えを的確に表現し、人とのコミュニケーションを通じて、適切な栄養の指導、医学検査を実践できる。 2. 管理栄養士・臨床検査技師・栄養教諭のリーダーとして社会で活躍できる技能を習得している。 <p>態度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療関係、食品関係、食育関係などの分野で活躍することを希望する。 2. 上記1の分野の担い手として、責任を十分に果たす自覚を持つ。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/curriculum.html ）
<p>（概要） 栄養学部栄養学科では「食」と「医療」の分野に精通した管理栄養士・臨床検査技師・栄養教諭を養成するため、十分な知識・技能を段階的に習得できるようカリキュラムを編成しています。</p> <p>管理栄養学専攻</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1年次では、社会人として必要な基礎知識や語学を身につけるため「共通教育科目」を配置します。調和のとれた教養教育と基礎教育を体系的に実施して、良識のある管理栄養士の基盤を構築します。とくに専門科目を学ぶ上で土台となる生物・化学については、重点的に教授します。「栄養教諭に関する科目」は1年次から開講します。 2. 2年次では、食品の分類や機能、身体の構造や各臓器の役割を学び、食品が体内でどの

<p>ように消化・吸収・代謝されるのかなど「専門基礎分野」を学びます。</p> <p>3. 3年次では、健康者や傷病者の献立や栄養の指導の方法など「専門分野」を学びます。また実験実習を通じて、講義で学んだことを深く理解するとともに、実践力を身につけます。</p> <p>4. 最終年次では、部門に配属され、教員と学生間の密接なコミュニケーションを通して課題研究がなされ、専門知識が深められます。</p> <p>生命栄養学専攻</p> <p>1. 1年次では、社会人として必要な基礎知識や語学を身につけるため「共通教育科目」を配置します。 調和のとれた教養教育と基礎教育を体系的に実施して、良識のある臨床検査技師の基盤を構築します。</p> <p>2. 2、3年次では、臨床検査技師に必要とされる専門性の高い知識技能と総合的な能力を養う「専門分野」を教授します。</p> <p>3. 最終年次では、臨床検査教育に加え、病院での臨床実習を通して、臨床現場での臨床検査技師に要求される様々な能力や考え方、ならびに医療従事者としてのモラルが習得されます。また、部門に配属され、実験や調査、教員と学生間の密接なコミュニケーションを通して課題研究がなされ、専門知識・技術が深められます。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/admission.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>栄養学部では、「自主的で個性豊かな良識ある社会人の育成」を教育の理念・目標に掲げ、倫理感覚に裏打ちされた人間性豊かな管理栄養士・臨床検査技師・栄養教諭を育成しています。そこで、次のような学生を広く求めています。</p> <p>1. 高等教育の教育課程における基礎的な学力を習得し、健康や医療に科学的な関心を持つ人</p> <p>2. 自らあたらしい課題を見つけ挑戦し、健康増進に意欲を持つ人</p> <p>3. 将来は、管理栄養士・臨床検査技師・栄養教諭の資格を活用し、社会に貢献しようとする人</p> <p>注)基礎的な学力とは、生物、化学、英語、国語、数学の教科である。</p>

<p>学部等名 薬学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.kobegakuin.ac.jp/information/public/）</p>
<p>（概要）</p> <p>薬学部薬学科の教育研究上の目的は、医療人としての薬剤師に必要な知識及び技術を修得させ、社会の求める医療のニーズに応えうる問題解決能力を持った学士(薬学)の育成を行うとともに、高度の専門知識技能を持った薬剤師の養成を行うこととする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/diploma.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>下記の能力を備えた学生に学位を授与します。</p> <p>1. 医療人としての豊かな人間性と高い倫理観、幅広い社会性を身につけている。</p> <p>2. 身につけた、自然科学、医学、薬学の専門知識を活かし、疾病に対する適切な医薬品の選択、使用を判断できる。</p> <p>3. 自ら発見した課題について、身につけた知識と経験をもとに、問題を解決し、考察することができる。</p> <p>4. 学んだ知識をもとに、疾病の予防、治療はもとより、人々の健康の維持増進に積極的に</p>

<p>寄与することができる。</p> <p>5. 積極的に他者とかわり、相互理解につとめようとする態度を有している。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/curriculum.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>薬学部では、次のようなカリキュラム・ポリシーを指針として、薬学に関する高度の専門知識や技能を持った人間性あふれる人材を養成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1年生では、「共通教育科目」や「基礎教育科目」を学ぶことで豊かな人間性と幅広い知識を、また「早期体験学習」から医療人としての心構えを植え付け、薬学を学ぶことへの動機づけを行います。 2. 2年生では、少人数クラスによる「薬学演習」をはじめ、薬の化学的・物理的そして生物的理解の基礎となる科目を学びます。 3. 3年生では、薬がどのような剤形で使われ、どのような体内運命をたどり、どのようにして効くのか、そして、薬を必要としない健康はどのように得られるのかなどの「専門教育科目」を学びます。 4. 4年生では、薬剤師が臨床の場で活躍するために必要な、知識・技能・態度に関する「臨床薬学科目群」を、さらに薬を正しく取り扱うための法律や社会制度について学びます。 5. 5年生では、病院や薬局で臨床実務実習を行い、臨床現場で薬剤師に求められる知識・技能・態度を体験します。 6. 高学年においては、研究室に分かれて卒業研究を行うとともに、高度で社会とのかかわりの深い「アドバンス科目群」を学び、将来の進路を決定する助けとします。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/admission.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>下記の能力を備えた受験生を選抜し入学を許可します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識を有している。高等学校で履修する国語、数学、理科、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。（知識と理解） 2. 物事を多面的かつ論理的に考えることができる。（思考力、判断力） 3. 自分の考えを他人に的確に表現し、伝えることができる。（表現力） 4. 病気、医薬品、自然環境、患者さんの治療などにかかわる諸問題に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲を有する。（関心、意欲） 5. 対話を通じて、他者との相互理解に努めようとする態度を有している。（態度）

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/organization.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
法学部	—	24人	11人	4人	0人	0人	39人
経済学部	—	16人	7人	4人	0人	0人	27人
経営学部	—	14人	9人	3人	0人	0人	26人
人文学部	—	17人	6人	7人	0人	0人	30人
心理学部	—	9人	6人	7人	0人	0人	22人
現代社会学部	—	13人	8人	0人	0人	0人	21人
グローバル・コミュニケーション学部	—	6人	6人	7人	0人	0人	19人
総合リハビリテーション学部	—	19人	8人	10人	9人	0人	46人
栄養学部	—	7人	4人	5人	6人	0人	22人
薬学部	—	20人	6人	20人	12人	3人	61人
教養部（一般教育）	—	5人	4人	16人	0人	0人	25人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		405人					405人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.kobegakuin.ac.jp/information/public/teacher/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>本学ではFDを「本学の教育にかかわるすべての組織及びその構成員が、大学憲章にもとづく教育目標の達成を目指して行う、教育の質向上のための組織的で継続的な取り組み」と定義し、活動している。</p> <p>また、2017年9月～2018年8月の期間において本学専任教員FD活動参加率100%を達成した。</p> <p>2019年度実施スケジュールについては以下の通りである。</p>							
2019年							
4月・FDアンケート調査開始							
・FD参観（授業公開）期間開始							
5月・FDセミナー開催【なぜFDが必要なのか】							
・学部等巡回FD実施							
6月・FDセミナー開催【授業改善について】							
7月・大学コンソーシアムひょうご神戸主催FDトップセミナー開催【大学経営について】							
・前期授業アンケート実施							
8月・授業アンケート結果（2019前期）WEB公開予定							
9月・FDワークショップ開催							
・後期FD参観（授業公開）期間開始							
・『FD NEWS Letter 2019 No.1』発行・WEB公開							
10月・FDセミナー開催【シラバス作成について】							
11月・FDセミナー開催【4月実施のアンケート結果によりテーマ決定】							
12月・FDセミナー開催【英語で授業をするために】							

・後期授業アンケート実施 2020年 3月 ・授業アンケート結果（2019 後期）WEB 公開予定 ・『FD NEWS Letter 2019 No.2』発行・WEB 公開

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
法学部	450人	456人	101.3%	1,783人	1,915人	107.4%	4人	2人
経済学部	340人	357人	105.0%	1,348人	1,575人	116.8%	4人	3人
経営学部	340人	356人	104.7%	1,343人	1,553人	115.6%	4人	3人
人文学部	300人	307人	102.3%	1,508人	1,635人	108.4%	4人	3人
心理学部	150人	151人	100.7%	300人	304人	101.3%	—人	—人
現代社会学部	220人	237人	107.7%	860人	947人	110.1%	—人	—人
グローバル・コミュニケーション学部	180人	187人	103.9%	690人	685人	99.3%	—人	—人
総合リハビリテーション学部	170人	182人	107.1%	680人	704人	103.5%	—人	—人
栄養学部	160人	154人	96.3%	640人	650人	101.6%	—人	—人
薬学部	250人	256人	102.4%	1,500人	1,495人	99.7%	—人	—人
合計	2,560人	2,643人	103.2%	10,652人	11,463人	107.6%	16人	11人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	
			就職者数	その他
法学部	418人 (100%)	3人 (0.7%)	343人 (82.1%)	72人 (17.2%)
経済学部	334人 (100%)	0人 (0.0%)	259人 (77.5%)	75人 (22.5%)
経営学部	325人 (100%)	1人 (0.3%)	288人 (88.6%)	36人 (11.1%)
人文学部	441人 (100%)	28人 (6.3%)	323人 (73.2%)	90人 (20.4%)
現代社会学部	202人 (100%)	1人 (0.5%)	182人 (90.1%)	19人 (9.4%)
グローバル・コミュニケーション学部	90人 (100%)	3人 (3.3%)	73人 (81.1%)	14人 (15.6%)
総合リハビリテーション学部	156人 (100%)	0人 (0.0%)	144人 (92.3%)	12人 (7.7%)
栄養学部	96人 (100%)	7人 (7.3%)	76人 (79.2%)	13人 (13.5%)

薬学部	244人 (100%)	1人 (0.4%)	225人 (92.2%)	18人 (7.4%)
合計	2,306人 (100%)	44人 (1.9%)	1,913人 (83.0%)	349人 (15.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
○進学先 金沢大学大学院、兵庫教育大学大学院、鳴門教育大学大学院、徳島大学大学院、兵庫県立大学大学院、関西学院大学大学院、立命館大学大学院、神戸学院大学大学院				
○就職先 西日本旅客鉄道(株)、大阪国税局、大和ハウス工業(株)、グローリー(株)、(株)マイナビ、ユニ・チャーム(株)、全日本空輸(株)、日本郵便(株)、(株)りそな銀行、楽天(株)、アシックスジャパン(株)、日本赤十字社、(独)国立病院機構、(株)スギ薬局、ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)、大塚製薬(株)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
法学部	482人 (100%)	363人 (75.3%)	67人 (13.9%)	52人 (10.8%)	0人 (0%)
経済学部	390人 (100%)	295人 (75.6%)	51人 (13.1%)	44人 (11.3%)	0人 (0%)
経営学部	346人 (100%)	288人 (83.2%)	36人 (10.4%)	22人 (6.4%)	0人 (0%)
人文学部	510人 (100%)	384人 (75.3%)	67人 (13.1%)	59人 (11.6%)	0人 (0%)
現代社会学部	218人 (100%)	191人 (87.6%)	17人 (7.8%)	10人 (4.6%)	0人 (0%)
グローバル・コミュニケーション学部	119人 (100%)	90人 (75.6%)	13人 (10.9%)	16人 (13.4%)	0人 (0%)
総合リハビリテーション学部	172人 (100%)	133人 (77.3%)	21人 (12.2%)	18人 (10.5%)	0人 (0%)
栄養学部	101人 (100%)	89人 (88.1%)	10人 (9.9%)	2人 (2.0%)	0人 (0%)
薬学部	280人 (100%)	183人 (65.4%)	56人 (20.0%)	41人 (14.6%)	0人 (0%)
合計	2,618人 (100%)	2,016人 (77.0%)	338人 (12.9%)	264人 (10.1%)	0人 (0%)
(備考)					
入学後に転学部した学生(15名)は、以下のとおり転学部先の学部において入学したものと計上。 <ul style="list-style-type: none"> ・経済学部 : 1名、(転学部先)現代社会学部1名 ・人文学部 : 3名、(転学部先)法学部2名、現代社会学部1名 ・グローバル・コミュニケーション学部 : 5名、(転学部先)経済学部2名、現代社会学部3名 ・総合リハビリテーション学部 : 4名、(転学部先)経済学部4名 ・薬学部 : 2名、(転学部先)経済学部1名、現代社会学部1名 					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

本学では、授業計画（シラバス）の項目や記入方法を全学的に統一している。具体的には、「シラバス作成マニュアル」を全教育職員に配付し、授業計画（シラバス）の質的保証に努めている。これは、全学的な教育の質的向上の推進等を目的とした「全学教育推進機構会議」で毎年10月ないしは11月に内容を審議し、全学教育推進機構事務室にて必要な改訂を行った後、周知を図るものである。

授業計画の作成・公表時期については、次年度の授業計画（シラバス）を毎年11月から翌年1月頃までにかけて作成し、3月に教務センターが実施する学部生向けの「履修ガイダンス」までに、WEB学内情報サービスの「シラバス照会」機能で、あらかじめ広く一般に公表している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

本学では、各学部において同様の取扱いをしており、「神戸学院大学学則」及び「神戸学院大学学科目履修規則」において、各授業科目の単位、授業科目履修方法、履修科目修了の認定、履修成績等について定めるとともに、「シラバス（授業計画）」の「成績評価方法・基準」と「提出課題など」において、各授業科目の成績評価に関する事項を詳細にあらかじめ公表している。

具体的な成績評価方法については、「授業中の質疑・発表」「小テスト」「中間テスト」「レポート」「定期試験」等とし、その評価は、秀（90点以上）、優（80点以上90点未満）、良（70点以上80点未満）、可（60点以上70点未満）、（不可60点未満）をもって表示し、秀、優、良、可を合格、不可を不合格としている。

また、本学では、各学部において同様の取扱いをしており、「全学共通GPA」を制定している。具体的には、秀＝S（4点）、優＝A（3点）、良＝B（2点）、可＝C（1点）、不可＝D（0点）、無評価＝／（0点）をGP（Grade Point）とし、以下の式を用いて「全学共通GPA」を算出している。

$$\{ (4 \times S \text{の修得単位数}) + (3 \times A \text{の修得単位数}) + (2 \times B \text{の修得単位数}) + (1 \times C \text{の修得単位数}) \} \div \text{履修したすべての科目の単位数の合計} (S + A + B + C + D + /)$$

上記した「全学共通GPA」を本学公式ホームページにて公表し、かつ学生に向けては「履修の手引」にも同様の内容を掲載することで、あらかじめ設定している算出方法や学内外での利用方法について周知を図っている。

また、「神戸学院大学学科目履修規則」において、学生が、定められた期間に履修取消申請をし、許可された場合や、病気等により長期欠席となり履修中止申請をし、許可された場合は、履修登録を取り消すことができる旨を規定している。

本学では「神戸学院大学学則」「神戸学院大学学位規則」及び「神戸学院大学学科目履修規則」に則り卒業認定を行っている。また、卒業の認定方針については「全学ディプロマ・ポリシー」を定め、その下にすべての学部において「学部ディプロマ・ポリシー」を定めている。

具体的には、「神戸学院大学学位規則」に、学士の学位を授与するものを定め、その方針を「全学ディプロマ・ポリシー」及び「学部ディプロマ・ポリシー」にて明示している。当該方針は、本学公式ホームページにて公表し、かつ学生に向けては「履修の手引」にも同様の内容を掲載することで周知を図っている。

上記した方針をカリキュラムに反映するため、「神戸学院大学学則」及び「神戸学院大学学科目履修規則」において、卒業に必要な要件である科目数と単位数を定めている。また、学生の卒業及び学位の授与は「神戸学院大学学則」に基づき、学長が決定を行う。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
法学部	法律学科	124 単位	有・無	各学期 24 単位
経済学部	経済学科	124 単位	有・無	各学期 24 単位
経営学部	経営学科	124 単位	有・無	各学期 24 単位
人文学部	人文学科	124 単位	有・無	各学期 24 単位
	人間心理学科	124 単位	有・無	各学期 24 単位
心理学部	心理学科	124 単位	有・無	各学期 24 単位
現代社会学部	現代社会学科	124 単位	有・無	1 年次のみ前後期とも 24 単位、以降各学期 22 単位
	社会防災学科	124 単位	有・無	1 年次のみ前後期とも 24 単位、以降各学期 22 単位
グローバル・コミュニケーション学部	グローバル・コミュニケーション学科	124 単位	有・無	各学期 24 単位
総合リハビリテーション学部	理学療法学科	124 単位	有・無	1 年次のみ前期 26 単位、後期 23 単位、以降各学期 24 単位
	作業療法学科	124 単位	有・無	1 年次のみ前期 27 単位、後期 22 単位、以降各学期 24 単位
	社会リハビリテーション学科	124 単位	有・無	各学期 29 単位、ただし生活福祉デザインコースはコース選択を行う 2 年次後期から各学期 24 単位
栄養学部	栄養学科	124 単位	有・無	1 年次のみ通年 50 単位、以降通年 55 単位
薬学部	薬学科	186 単位	有・無	1 年次のみ通年 55.5 単位、以降通年 55 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)	公表方法： 神戸学院大学公式ホームページ「成績評価・G P A制度」 https://www.kobegakuin.ac.jp/information/public/evaluation_gpa.html ただし、薬学部では、選択必修の専門教育科目に限定して算出する「薬学 GPA」を併用しており、これを履修指導や進級要件に利用している。			
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法： ・神戸学院大学公式ホームページ「大学データ集」 https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/data.html ・神戸学院大学公式ホームページ「教員採用試験合格・進学状況」 https://www.kobegakuin.ac.jp/information/public/ ・神戸学院大学公式ホームページ「学修時間」 https://www.kobegakuin.ac.jp/information/public/ ・神戸学院大学公式ホームページ「全学教育推進機構」 https://www.kobegakuin.ac.jp/facility/org/ ・神戸学院大学公式ホームページ「課外講座・資格サポート」 https://www.kobegakuin.ac.jp/facility/cec/extracurricular.html			

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.kobegakuin.ac.jp/information/public/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
法学部	法律学科	720,000 円	300,000 円	200,000 円	施設設備維持充実費
経済学部	経済学科				
経営学部	経営学科				
人文学部	人文学科	750,000 円	300,000 円	200,000 円	施設設備維持充実費
心理学部	心理学科	800,000 円	300,000 円	300,000 円	施設設備維持充実費
現代社会 学部	現代社会 学科	800,000 円	300,000 円	200,000 円	施設設備維持充実費
	社会防災 学科				
グローバル・ コミュニケーション 学部	グローバル・ コミュニケーション 学科英語コ ース	800,000 円	300,000 円	200,000 円	施設設備維持充実費
	グローバル・ コミュニケーション 学科中国 語コース				
総合リハビリ テーション学部	理学療法 学科	1,350,000 円	400,000 円	400,000 円	施設設備維持充実費
	作業療法 学科				
	社会リハビリ テーション学科	900,000 円	300,000 円	300,000 円	施設設備維持充実費
栄養学部	栄養学科 管理栄養 学専攻	800,000 円	400,000 円	400,000 円	施設設備維持充実費
	栄養学科 生命栄養 学専攻	1,000,000 円	400,000 円	400,000 円	施設設備維持充実費
薬学部	薬学科	1,395,000 円	400,000 円	400,000 円	施設設備維持充実費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

【修学支援の方針】

建学の精神「真理愛好・個性尊重」に基づき、全学の教育目標である「自主的で個性豊かな良識のある社会人の育成」を実現するために、全学の修学支援の方針を以下のとおりとする。

1. 各学部・研究科において指導教員制度を実施し、学部・研究科、教務センターとの連携の下に、きめこまかな修学支援・指導を行う。
2. 成績不振者、留年者に対しては、修学状況の改善のために、指導教員を中心に、学部、教務センターが連携して適切な支援・指導を行う。
3. 障がいのある学生に対して適切な支援体制を整備し、個々の学生にとって有効な学習環境・修学支援を提供する。
4. 本学独自の奨学金制度・奨励金制度により、意欲のある学生に適切な修学環境を提供する。

各学部において指導教員制度を実施し、教務センターと連携してきめ細やかな修学支援・指導を行っている。日頃からオフィスアワーを設け指導教員と学修相談ができる体制を整えており、特に成績不振者については一定の基準を定め、該当する学生を指導教員が個々に指導している。また保証人にも半年ごとに成績表を送付しており、成績不振者に該当する場合はその旨を併せて通知し情報を共有している。留年者についても、同様に成績発表時に指導教員が指導を行っている。

休学及び退学を願い出るにあたっては、指導教員が必ず事前に相談にあたり、指導教員の了承のもとで願い出する体制を取ることで学業の継続のための適切な支援・指導をする機会を確保している。

高校からの学修と大学教育の円滑な接続を図るため全学部を対象とする共通教育科目に高大接続分野科目を開設している。ここで高校時の履修状況に配慮した補充(リメディアル)教育の一環として各分野の基礎知識を修得させるため、1年次に「近現代史概論Ⅰ・Ⅱ」「生物学概論Ⅰ・Ⅱ」「化学概論Ⅰ・Ⅱ」「数理科学基礎Ⅰ・Ⅱ」を開講している。

さらに各学部においては初年次に「入門演習」や「基礎演習」を開設し、大学生活への導入教育を行うことで離学の防止につなげている。

奨学金・奨励金制度については、学生が安心した学生生活を送ることができるよう、経済支援を目的とした奨学金をはじめ、学業奨励・課外活動等支援を目的とした奨学金など、様々な奨学金制度(奨励金・学費免除)を設けている。学生が利用できる経済支援型の奨学金、学術分野や社会活動等での優秀者や学業成績優秀者に対する奨励金、クラブ活動に励む学生が利用できる奨学金、私費外国人留学生在が利用できる学内外の奨学金、海外への留学を希望する学生が利用できる奨学金等がある。

また、学費を一括で納入することが困難な者に、学費分納制度を設けている。学費を分割して納入することを希望する者は、前期・後期とそれぞれ申請が必要になる。分納を許可された者は、前期学費を4月・5月・6月・7月の4回に分けて、後期学費を10月・11月・12月・1月の4回に分けて、学費を分割納入することができる。さらに、分納を許可された者で、やむを得ない事情により、所定の期日までに納入できないときは、学費分納特別猶予願を提出し、納入期限を延期することができる。

学生の主体的・自主的な活動を通じて、学生自身の成長とともに大学の価値を高め、ブランド力に寄与する活動を支援することを目的として、2015年度から「学生チャレンジプロジェクト」を実施している。本学に在籍する学部学生2人以上でチームを作り、自らが考え主体的・自主的に活動することができるとともに、大学のブランド力向上につながるテーマで企画を考え、申請書類を提出し、審査を通過した企画に対して、1件50万円を上限(5件程度採択予定)として助成金を支給し、活動を支援している。また、学生の成長を支援するために、3種類の研修(企画立案研修、プレゼンテーション研修、フォローアップ研修)

を実施している。

障がいのある学生への支援については、障がい等の理由により、学生生活を送るうえで困難なことや、授業等での困りごとに関する相談窓口として、学生支援センターに障がい学生支援コーディネーターを配置している。また、コーディネーターとの相談の上、必要に応じて、修学上の配慮要望に関する申請を行うことができる。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

【進路支援の方針】

建学の精神「真理愛好・個性尊重」に基づき、「自主的で個性豊かな良識のある社会人の育成」を実現するために、全学の進路・就職支援の方針を以下のとおりとする。

1. 社会人になるために、学生時代には何をしておくべきかについての指針を示す。
2. 学生が自分の個性にあった進路・就職先を見つけられるような多様な支援を行う。
3. 各行政機関との就職支援協定を活かし、UIJ ターンして地方の活性化に貢献できる学生を育成する。

キャリアセンターでは、各学年を対象にした「履歴書・エントリーシート作成」「面接対策」「業界研究」など、就職活動に役立つガイダンス（講座）・セミナーを随時開催している。個別相談では、職業選択やキャリア関係全般に関して、就職活動の相談に応じる進路相談員、本学のキャリアセンタースタッフが学生を全面的に支援している。

その他、合同企業説明会、インターンシップ情報、キャリアセンター公式 Twitter アカウントの運営、既卒者、留学生、障がいのある学生に対する就職情報など、幅広くフォローしている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

【生活支援の方針】

建学の精神「真理愛好・個性尊重」、並びに神戸学院大学憲章に定める教育基本理念「生涯にわたる人間形成の基礎となる教育」に基づき、すべての学生が充実した大学生活を送るための多面的で総合的な支援活動を生活支援に関する基本方針とし、以下によりその実現を目指す。

1. 健康的で充実した学生生活の実現に向けての支援を行う。
2. 安心安全で快適なキャンパスを実現するため、大学環境を整備する。
3. 課外活動を奨励、支援する。

医務室では、大学のホットステーションとして、学生の健康をサポートしている。健康的な学生生活を送られるよう、学校医が健康相談に応じている。身体的・精神的な相談や女性特有の悩みなどについて、専門的なアドバイスを受けることができる。定期健康診断も年1回実施している。

学生相談室では、大学生活の中で、学生が抱えるさまざまな悩みごとの相談を受け付けている。専門のカウンセラーが学業、進路、人間関係、生活上のことなどの相談に応じている。どんな内容でも、気軽に学生相談室を訪ねることができ、学生の気持ちを尊重しながらカウンセラーがじっくり話を聴き、一緒に解決の糸口を見つけている。相談内容の秘密は守られる。

ハラスメント相談室では、ハラスメントに関する専門知識を持つ専門相談員が、ハラスメントの被害を受けた相談者の事情を聞き、相談者の立場に立って相談に応じる。専門相談員は、相談者の問題が少しでも改善されるよう一緒に考え、適切な情報提供と助言を行い、問題解決のための全過程において相談者の自己決定と権利回復を援助する。相談者のプライバシーを最大限保護し、秘密を厳守している。

また、教育研究活動中に生じた事故に備え、入学時に学生教育研究災害傷害保険（以降、学研災）及び通学中等傷害危険担保特約に全員加入しており、大学で保険金の申請手続きを受け付けている。また、任意加入できる学研災付帯賠償責任保険の案内・加入手続き、学研災ではカバーできない範囲まで補償を広げた神戸学院大学学生総合補償制度の案内も行っている。さらに、課外活動団体に対しては、スポーツ安全保険への加入費用を大学と同窓会とで全額負担している。体育会団体は全員加入しており、それ以外の団体は任意加入としている。

その他、医療費補助制度を設け、学研災やスポーツ安全保険で賄えなかった医療費を補助している。神戸学院大学傷害医療費補助の対象は正課中、教育後援会傷害医療費補助の対象は課外活動中である。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : <https://www.kobegakuin.ac.jp/information/public/>